

情報システム Information Systems



ウェルビーイング Well-being



状況を見える化し、 “情報”を資源として活かす。

公園の「管理運営情報」は、管理状況の確認に役立つほか、分析・評価して公園マネジメントの推進に活用すれば、「情報資源」として大きな価値をもつものになります。私たちは、公園マネジメントに一早く情報システムを取り入れることで、管理運営状況を「見える化」し、多角的な分析に活用しています。さらに、公園管理システムやスマートフォンアプリを開発し、公園の運営管理にかかわる業務が適切かつ効率的に行われるようサポートしています。



“公園からの健康づくり”を、 提言し、実践する。

2050年には、世界人口のおよそ70%が都市に住む時代を迎えると言われて、都市公園が地域や社会に果たす役割が改めて認識されています。私たちは、「一般社団法人 公園からの健康づくりネット」を設立し、都市公園をはじめとする緑のあるパブリックスペースが、市民のウェルビーイング向上にどのように役立つのかを研究してきました。そして、その成果を会員企業と共有するとともに、広く一般の方々に向けて発信する活動を行っています。



公園の管理運営情報を、 「情報資源」として役立てる

公園の維持管理業務にかかわる作業情報は、ヒト・お金・時間など事業資源の配分を検討するうえで、コストの縮減や適切な作業計画の策定に役立てることができます。地図データと紐づけて情報を整理すれば、公園内で行われている作業の分布や、周辺エリアと公園のかかわりについて調べることができます。

情報システムやアプリを開発し、 導入をお手伝い

管理運営情報を公園マネジメントに活用するには、情報システムの活用が有効です。近年、指定管理者や公共団体で導入が進む「POSAシステム」のほか、Excel、Accessなどの身近なソフトウェアによるシステム、モバイル型システムなど、ニーズに合わせて最適な情報システムの導入をお手伝いします。

「植物がある」「空間」という、 公園の特性に着目

人間が自然との交わりを求める本能的欲求はバイオフィリアと言われ、「植物」の健康効果を期待したバイオフィリック・デザインが注目を集めています。「空間」という特性からは、安全に身体活動が可能で、かつ、適度なリスクと探索行動を体験できる場として、ヒトの学習と成長を促してくれます。

WHO（世界保健機関）も認める、 公園の可能性

WHOは、「都市緑地を量・質ともに向上させる施策は、すべての人口グループに健康・社会・環境にプラスの結果をもたらす可能性がある」という見解を示し、特に、アクティブなライフスタイル、精神的ウェルビーイング、社会的相互作用への影響が重要な利点として強調されています。

Case Study

公園マネジメント情報システム「POSAシステム」

公園の管理運営情報や公園台帳などを一元的に管理できる高度な情報システムです。ブラウザベースのシステムのため、データの入力や分析、検索などの操作がかんたんで、運用性に優れています。(社)日本公園緑地協会が開発を手がけ、私たちはシステムの企画・設計の段階から開発に参画しています。



スマートフォンアプリ「公園 Note」

スマートフォンを使って公園の管理情報を記録し、整理・活用できる、公園管理者向けのアプリケーションです。たとえば、作業の事前・事後の記録写真をスマートフォンのカメラで撮影し、その場でGPSの位置情報と紐づけて登録。アプリ上でスムーズに報告書の作成を行うことができます。



Case Study

ウェルビーイングの施策提言・発信

「アクティブデザインのすすめ〜ウェルビーイングのための まち・ひと・ことのデザイン提言」や「あたらしい生活の様式とみどりの処方」という冊子の発行、WHOが発表した「都市緑地の健康効果」についての日本語訳に取り組むなど、ウェルビーイングにかかわる施策・情報を広く発信しています。



ウェルビーイングの向上支援

公園を活用してできる適度な強度の運動や、楽しみながら運動習慣を身につけるためのプログラムを開発し、その普及に取り組んでいます。さらに、「働く世代を元気に」というテーマのもと、公園からの健康づくりを活用したい企業・団体の方々に向けた、健康経営のサポートも行っています。

